

「国防は最大の社会福祉」という。平和なくして安全はむろん繁栄も人権もない。国家は国民を守る責務がある。手段を尽くして脅威を現実化させてはならない。そのため抑止力は不可欠だ。安倍晋三(首相)は退陣前、「敵基地攻撃能力」の検討を促した。だが検討は進んでいない。自民党総裁選でも表層的議論で終わっていたのは残念だった。

北朝鮮の変則軌道のミサイル 北朝鮮は9月11、12両日、長距離巡航ミサイルの発射実験を実施した。15日には初めて列車から短距離弾道ミサイルを発射し、28日には初の極超音速ミサイルの発射実験を実施した。 北朝鮮は、核兵器の小型化・弾頭化を実現し、弾道ミサイルに搭載して攻撃する能力を保有している。金正恩朝鮮労働党委書記は2017年、「取るに足らない日本列島を核爆弾で海中に沈めるべきだ」と述べた。脅威は能力と意図から判断される。まさに「北朝鮮の軍事動向は、わが国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威」

上滑りの「敵基地攻撃能力」議論

(防衛白書)である。

今回の弾道ミサイルは変則的な軌道を描いた。現在の弾道ミサイル防衛システムでは対応できない。現システムは、弾道ミサイルのブースターが燃焼後、弾道軌道(中間段階)を精緻に計算し、未来位置に向けて迎撃ミサイルを発射する。中間段階での弾頭は音速の10倍以上で、迎撃には、Dog Chase(大追い)では追いつかない。変則軌道では未来位置の計算ができず中間段階での撃破は不可能になる。最終段階におけるPAC-3迎撃で守れるのは拠点にすぎない。

北朝鮮の弾道ミサイルが変則軌道のミサイルに全て置き換わるにはまだ時間がかかる。旧来の弾道ミサイルがある限り、現在の弾道ミサイルシステムは有効である。だが今から準備しておかねばならない。現在のところ対応手段は「敵基地攻撃能力」しかない。

正論



元空将 東洋学園大学客員教授 織田 邦男

誤解による外れな批判

「敵基地攻撃」と言った途端、条件反射的に否定的な反応が生じる。「ミサイル阻止能力」でもいいが、いずれにしろ誤解や思い込みなどの外れな批判が多い。主な原因は「敵基地」について同床異夢であることだ。 「敵基地攻撃」の目標は概ね次の3種に分類される。①政治、経済の中枢の発射施設、通信施設などミサイル関連施設②発射準備中のミサイル本体。①は戦略攻撃目

標であり、核兵器でなければ抑止効果はない。今の日本では米国の「矛」に依存せざるを得ない。

②の目標は散在しており、同時制圧を要する。これには攻撃能力以外に、目標情報収集、防空網制圧、効果判定等の種々の能力が必要となる。全てを自衛隊単独で保有するのも非現実的だ。だからといって全て米軍任せにもできない。日米共同作戦を念頭に、自衛隊が機能分担できるよう着実な整備が求められる。 ③は「ミサイル防衛」の範疇で

あるが、意外と知られていない。米国家安全保障戦略(2017年)では、弾道ミサイル防衛システムを次のように定義している。 "This system will include the ability to defeat missile threats prior to launch." (「このシステムは発射前のミサイル脅威を破壊する能力を含む」筆者訳)。

これまで米国の定義だからと「知らぬ顔の半兵衛」を決め込んできた。だが「敵基地攻撃」を真剣に議論する時、この事実は避けて通れない。

をリアルタイムで把握する能力が前提となる。 だがリアルタイム情報さえ入手できれば、北朝鮮まで約8〜9分程度で届く精密誘導弾道ミサイルの保有により実行可能性は高まり抑止力たかくなる。

小型衛星による探知システム整備に着目し、情報能力を確保すればいい。イーリス・アシアタ代替のイーリス・システム搭載艦事業を直ちに中止し、予算を②に振り替えるべきだ。今であれば間に合う。

「力のない外交」は抑止力か 「日米防衛協力のための指針」(2015年)では、弾道ミサイル防衛の日米役割分担をこう規定する。「自衛隊は、日本を防衛するため、弾道ミサイル防衛作戦を主体的に実施する。米軍は自衛隊の作戦を支援し及び補充するための作戦を実施する」。③は「弾道ミサイル防衛」に含まれるが故に主体的に実施しなければならず、既にわが国の役割なのである。 実行可能性の議論があるのは事実だ。③は発射ランチャーの位置

「先ずは外交努力である」という主張には筆者も同意する。だが「外交努力」を口実に独立国が為すべきことを怠ってはならない。「外交努力」が先か、防衛力整備が先かの問いも愚問である。防衛力整備は10年かかるが、敵の意図は一夜にして変わり得る。「力のない外交」は抑止力たりえない。 今後②を着実に整備することにも③に直ちに着手し抑止力を保持すべきだ。少なくとも③はもはや議論してはならない。次期政権に期待するところ大である。(おりた くにお)